

今月の聖句

『あなたがたは真理を知り、
真理はあなたがたを自由にする。』
ヨハネによる福音書 第8章32節

◎5月の予定

7日(日) 神私小フォーラム
10日(水) 心臓病検診(小1・中1)
12日(金) 春の遠足(小・中)
16日(火) 遠足予備日
18日(木) 授業参観・保護者会
聖書教室

19日(金) 尿検査

南部フェスタ(中)

24日(水) 内科検診(小・中)

25日(木) 教務委員会

26日(金) 理事会・評議員会

29日(月) 教育実習(小) 6月24日まで

30日(火) 31日(水) 中間試験(中)

31日(水) ニコニコランチ

◎6月の予定

1日(木) 尿検査(2次)

4日(日) 私小情報フェア(新横浜)

6日(火) 8日(木) 体験学習(転入)

9日(金) 観劇(中)

14日(水) 一斉引き渡し訓練

20日(火) 音楽会



鳥取より岩美中学校来校(4月24日)



創設者澤田美喜先生のご主人、澤田廉三氏の出身地、鳥取県岩美町にある岩美中学校の三年生が、修学旅行で本校を訪ねてくれました。岩美中では、澤田美喜先生の功績について学習を重ね、4月初めには、鳥取の別荘周辺やお墓の清掃もしてきています。

今年は110名の生徒さんと本校の生徒が、海の見えるホールでお互いの学校を紹介し合うことから始まり、第3回卒業生、福島秋豊さんに講演いただき、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。岩美中だけでなく、本校の生徒にとっても貴重なお話をうかがう機会となりました。幼い頃の熊井浜での夏の思い出話が印象に残りました。交流の後には、澤田邸母屋、澤田美喜記念館の見学をしました。

☆新年度がスタートしました

今年は、ゆつくり桜が咲きました。4月16日の日曜日頃まで散りませんでしたから、入学式・始業式からさらに一週間後までやわらかい空気が学園を包んでいました。

そのためでしょうか。各学年穏やかなスタートを切れたようです。

一学年進級すると、子どもたちはグッと成長します。前の学年で蓄えていた栄養を一気に使うように脱皮するのです。

◎先月の行事から

4月19日(水) イースターコンサート

日英音楽協会創設25周年記念 日本公演
パイプオルガンの深みのある演奏と、美しいテノール、ソプラノの歌声を堪能しました。一般のお客様は百六名でした。



◎今後の予定

5月12日(金) 春の遠足

小学校(低学年) 平塚市総合公園

小学校(高学年) 箱根 大涌谷・湖尻

中学校 箱根 神奈川県立恩賜箱根公園

まず、自分が幸せだと思える生き方を

学園長 小川 正夫

ジョークの世界のことですが、こんな小話がありました。豪華客船が沈没しようとしているとき、大きな渦に巻き込まれる危険があるので、できるだけ船から遠ざかるように、船長は乗船客に向かって、海に飛び込むように指示していたのだそうです。

アメリカ人には「あなたが飛び込んで見れば英雄になりますよ」と声をかけ、イタリア人には「勇気を出して飛び込めば、貴方は女性にもてますよ」と呼びかけ、イギリス人には「率先して飛び込めば、貴方は紳士になれますよ」と声をかけたようです。そして日本人の乗船客に向かって船長は声をかけました「みんな飛び込んでいますよ」と言ったという話ですが、どこことなくその国の人の氣質を言い当てているような気がします。

みんなが持っている、みんながやっている、みんなが言っている、みんなが知っている、というように、「みんな」という言葉に日本人の私達は感わされやすいようです。

思い出してみると、六十七年も前のことです。私が高校を卒業するとき、校長が卒業生に送った祝辞の中に、「みんな」がやっているからでなく「君はどうしたいのか」という言葉がありました。そして「夢多き君達はいろいろなことに関心をもち、いろいろなこと

を経験することだろう、喫煙したり、飲酒したり、好ましくない誘惑に惹かれたりすることもあると思いますが、そのとき、ちよつと立ち止まって『なんの為に』と考える様にしなさい、そうすれば君達が大きく道を踏み外すことはない」と話されたことがあります。ノートルダム清心女子大学で教えておられた渡辺和子先生も同じ言葉を残していることに気が付きました。

年齢を重ねていくと、学生時代に何となく聞き流していたような言葉が、実感として思い当たることがよくあります。そして、心に向けてみると、小さな出来事や、ちよつとした出会いに感動することがあり、幸せや喜びを感じるものが少なくありません。

「私達が、自分は幸せではないと感じる時は自分が幸せであることに気が付いていない時間で、ただそれだけの理由だ。」というドストエフスキーの言葉が耳に残っていますが、私達は、自分の心が傷ついた想いや、自分の心の痛みや悩み事には敏感ですが、すでに与えられている幸せには、当然のことだとして気が付いていない傾向があるようです。

さて、子ども達の幸せを願わない親や教師はおりませんが、その為には、子ども達が幸せになることを願っている大人達自身が幸せな生き方ができなければならぬ、まず大人が幸せになることが大切だということです。

なぜかという、子ども達はやがて大人になります。将来大人になった自分の姿を目の

前の大人達から学んでいます。私達の生き方を模範としているかもしれません。ときには反面教師としてネガティブに、学んでいるかもしれません。どちらにしても、大人を見て学んでいることは間違いありません。

大人の社会で、日常生活に不満が多かったり、人を疑ったり、いつも自分が正しいと考えて人の批判や陰口が多かったり、自分本位で相手の話を聞けなかったり、他人を陥れるような言動や、思い通りにならないことに被害者意識を持ったりしている姿を、新鮮な鋭い子ども達の視線で感じ取れば、子ども達はそのような大人にはなりたくないと思いますし、幸せな将来を学びとることはできません。

大人が様々な出会いの中で、豊かな感性を持つて、物事を明るく建設的に受け止め、子ども達一人ひとりの輝くような眼差しに幸せを感じ、愛する人に応える想いがあれば、子ども達は素直に、自分達の将来像を重ねるに違いありません。嘗てイギリスの村の教会の婦人会で、将来、子ども達にどんな大人になることを願っているか質問したことがありましたが、ほとんどの人が「ハッピー パーソン」 幸せな生き方ができる人と答えてくれました。もう一つは「リスペクト アザーズ」、相手を大切に想うことができる人でした。

経済的な豊かさ、恵まれた物質的な環境よりも、温かく豊かな感性を持った人間的な環境が大切だということなのかもしれません。

まず、幸せだと思える大人になることです。

『明日はきつといい日になる!』

教諭 高桑 恵

入学して早くも一カ月が経ちました。一年生たちは、学校生活にも慣れてきて、楽しそうな笑顔がたくさん見られるようになりました。通い慣れた幼稚園から新たな環境で初めての先生や友達、そして勉強。初めてづくしの中でご家庭の支えをいただいてやっとの思いで登校してくる子どもたち。小さな身体で、どれほどの緊張と闘っているのだろうと思うと愛おしさでいっぱいになります。そんな、子どもたち自身、一年生としての自覚をしっかり持っていることが分かります。なぜなら、生活面でも学習面でも、とにかくよく頑張るからです。

まず、朝の登校時間に遅れないようにがんばって登校してきます。ある日、いつもよりも遅い時間にやってきた子は、クラスに入りなりこう言いました。「先生!ごめんなさい。遅れちゃって。」と言いつつも謝ることで済みました。「大丈夫だよ。まだ礼拝まで時間があるから。」と言うと、やっとな安心した表情になりました。忘れ物をしてしまった時、もとても不安そうに「筆箱、忘れてごめんなさい。どうしよう!。」と、とても素直に言えます。そこでも、「次からがんばれば大丈夫だよ。」と伝え、やっとな安心。

ひらがなの練習にも、全員が集中して取り

組みます。こちらでも気分が乗ってしまい、ついつい、たくさん書きすぎてしまいました。「手が痛い。」と言うので、「もう終わりにしましょうか。」と言っても、止める気配はありません。「こんな中途半端で終わりになんかできないよ。」とでも言いたげに鉛筆を握りしめてがんばります。こちらの声かけに対して、できる限りやってみようとする姿勢はこの時期、一番強いのもかもしれませんが、素直さや意欲は、何物にも替えられないものだと思うのです。ご家庭でのご支援の有難さはもちろん感じているところですが、本人たちの努力がそこかしこに見られ、竹の子のようにぐんぐん伸びていく子どもたちの成長には目を見張るばかりです。

一年生は、絵本も大好きです。絵本の読み聞かせが始まるとそれまでざわざわしていた途端にみんな集中して聞くことができます。先日、『野菜の学校』という絵本を読みました。主人公のピーマンくんが学校に入学した直後は遅刻が多く、授業中に何度も居眠りをしていたのに、他の野菜たちが頑張って美味しい野菜になっていく姿を見て、自分も頑張ろうと決心して真面目に一生懸命取り組むようになるというお話です。最後の卒業時には、合格シールをもらって誇らしげにスーパ―に旅立っていきます。読み終えると自分も「合格シールがもらえるようにがんばる!」「少し失敗しても大丈夫だね。」と、こちらで何も言わずともたくさんのかんじえているようでした。

た。とても素直にお話を受け取る子どもたちには本当に感心します。澄んだ心とキラキラ光る真っ直ぐな瞳で小さな歩みでも確かな一歩を歩んでいると思います。

もちろん、たまには勉強に気持ちが向かない時もあります。でも、子ども達は、その子を買収したりはしません。逆に私に「大丈夫だよ。待つてあげれば、次はできるよ。」と教えてくれます。お友達同士で励まし合い、認め合って、お互いに高め合えるよう、絆を深めてほしいと思います。

また別の場面では、自分の思い通りにいかずに焦れてしまう子もいます。でも、「今日は、いい日だ!」という魔法の言葉をかけるだけで全てがうまく回っていきます。

「勉強をがんばった!」「忘れ物もない!」「先生のお手伝いもした!」「給食も全部食べた!」など。プラスの言葉かけがプラスの行動を呼び、達成感を感じ、次への意欲に繋がっていく。なんて素晴らしいんだ、一年生!経験が多少あっても、一年生の感性と柔らかい心には敵いません。子ども達からたくさんのかんじを学びます。一年生たちとの学習は、まだ始まったばかり。これから先、楽しいことばかりではないでしょう。でも、一日一日が幾多の困難にもめげない力を育むための大切な学びの連続です。実りの多い一年になるように子ども達と共に成長できるよう努力していきたいと思ひます。

そんな自分を好きになる

教諭 米原 佑樹

私の知人に、チャイルドライフスペシャリスト(CLS)という資格を取得するために、アメリカの大学院で勉強している人がいます。直訳すれば「子どもの命(生活)の専門家」となるこの職業は、病院での勤務が主となります。こう書くと、まるで小児科医か看護師さんのようですが、そうではありません。CLSは一切の医療行為を行わないのです。彼らの仕事は、「入院や手術等、どんな困難な状況にあっても、子どもとその家族が、その人らしくいられるように手助けをすること」なのです。

CLSの普段の様子は子どもと遊んだりおしゃべりをしたりしているだけのようにも見えるそうです。しかしそうした何気ないやり取りの中で、突然身体と環境の変化にさらされ、避けようもなく心が不安定になっていつている子どもたちが、叫びだしたい気持ちを胸に押し込めてしまわないように、CLSは耳を傾け続けます。そうして子どもの思いを受け止めていきながら、CLSは保護者と相談のうえ、子ども本人に彼らの身体に何が起きているのかを伝え、子どもが納得して治療に取り組めるように支援していくのです。実際に、こうしたCLSの働きかけによつて、不安の中でも自分を見失わずがんばる力

を引き出してもらった5才の女の子が、自身の白血病を理解し、白血球の数値目標を目指して懸命に治療に励んでいる様子をドキュメンタリーで観た時には、大きな感動を受けました。子どもが持つ前向きな力を信頼し、その子がその子らしくがんばれる環境と機会を作っているCLSの仕事に尊敬の念を覚え、ずにはいられませんでした。

こうしたCLSの仕事を知って、とてもシンプルに事実に気づかれます。それは、人がどんなに自分らしくあろうと思っても、独りではできないということです。

自分らしさの追求は、不思議と自分一人の孤独な戦いのように思われがちです。しかし人は、周囲との心が通じ合った交わりの中で人を信頼したり人に信頼されたりする経験を重ねることで、はじめて自分自身の力を信用し、おびえずにありのままの自分を表現できるようにになっていくのではないのでしょうか。

そしてこれは、子ども同士の関係においても同じかもしれません。多様な個性を重ね合わせながら学びを育んでいるステパノの子どもたちを見てみるとそのように思えてきます。ステパノ学園は二〇一七年度、『そんな自分を好きになる』というテーマで広報活動を行うことになりました。これはベテランから若手まで、広報を担う教員が集まって「今、ステパノが大切にしていることはなんだろう」「どんなテーマなら、学園の教育を表現できるだろう」と何度も議論する中でできた

言葉です。とてもシンプルですが、ステパノらしさがよく伝わるテーマになったと感じています。

思い返せば、昨年度、受け持った6年生は友達同士のやり取りがとても楽しそうで、みんな毎日よく笑っていましたが、一方でぶつかり合いも少なくありませんでした。きつと、それぞれの三六五日が、楽しかった日も辛かった日もたくさん詰まった、山あり谷ありの歩みだっただろうと思います。しかし、そんな日々の中で子どもたちが見せてくれた笑顔や悔し涙や怒った顔を思い出しながらこのテーマを見ると、思わず胸にこみ上げるものがあります。彼らは全力でぶつかり合い、補い合い、いつしか自然とかみ合っていた日々の中で、お互いの信頼関係をしっかりと重ねあげ、周囲の人の、そして自分自身の尊さを、理解していったように思います。

今年度、久しぶりに1年生の副担任となり、新鮮な想いで毎日教室に入ります。彼らは一体、どんな成長をしているのでしょうか？まだずいぶん早いのですが、無邪気に遊ぶ彼らの表情を見ると、思わず6年生になった時の姿を想像してしまいます。小学校生活はもちろん平坦な道ばかりではありません。しかしその中で、少しずつ少しずつ、友達を好きになり、自分を好きになり、自分らしさを発揮していけるようになっていったほしいと願います。

告白しますと、実は私、大変怠惰な性格をしているのです。家では、自分の半径1m位に必要なものをすべて置いて、そこから動かずゴロゴロしています。基本姿勢は臥位（寝ている姿勢）です。生徒たちを教え導く仕事をしているのにこれで良いのか！と思い悩むこともありましたが、基本がものぐさなので「まあ、いつか」と悩むこと自体もすぐ止めてしまします。

そんな私は、名前からして親近感を持たずにはられない動物・ナマケモノに興味を持ちました。テレビでその愛らしい姿を見たことのある人も多いでしょう。ナマケモノは南・中央アメリカの熱帯林に生息する、体長40cmから70cm程度の哺乳類で、一生のうちのほとんどを木の枝にぶら下がって過ごします。睡眠時間は1日20時間。起きていてもほとんど動きません。速さはなんと時速16m！（kmではありませんよ）体にほとんど筋肉がなく、素早く動けません。そんな彼らは、ワシやタカなどに見つかってしまつと、簡単に捕食されてしまいます。全力で動いても時速120m（繰り返しますがkmではありません）ですから逃げられなくて当然です。しかもナマケモノには餓死というリスクもあります。彼らが餓死する理由は食べ物が無いからではなく、食べ物を消化してエネルギーに変えるのに恐ろしく時間がかかるから。その期間、

何と1か月。そのため食べ物を上手く消化できない期間が続くと、満腹なのに餓死してしまうのです。何だかナマケモノが哀れに思えてきますね。

こんな弱点ばかりのナマケモノがどうして厳しい生存競争を勝ち抜いて絶滅を逃れているのか。そこには他の動物とは異なる戦略があります。まず彼らの体の色は木の幹の色によく似ており、枝にぶら下がり動かないことで自らを木の一部に見せ（擬態）、捕食者から見つかりにくくしているのです。また彼らは哺乳類には珍しく変温動物で、消費エネルギーが非常に少ない、超省エネ設計の体になっています。そのため、ごくわずかな食物（1日に8g程度の植物）で生きることが可能なのです。それ以外にも雨期の洪水に対応するために実は泳ぎが得意だったり、自分が普段生活している木の根元に排便することで身を守ってくれる木に養分を提供していたりと、知れば知るほど興味深い、オリジナリティーに溢れた生態をしています。ナマケモノは自分の特性を利用することで、力はなくとも、弱肉強食の自然界で生き抜くことを可能としているのですね。

そう、ナマケモノはダラダラしているのではなく、自分の持てる力を最大限に活用し、練りに練った戦略を武器に、生存をかけた戦いに日々挑んでいるヒーローなのです、と言ったら言い過ぎでしょうか。ですが可哀そうに思えたナマケモノが段々かつこよく見えてきませんか。人間の「怠け者」と動物の「ナマケモノ」

の間にはずいぶん大きな違いがあるようですね。

私は、自分の「怠け者」な部分は完全には無くせなくても、「ナマケモノ」のような強さのある人でいたいなあと思っています。動物の「ナマケモノ」のように、多数派では無くても自分の個性を活かし一生懸命、与えられた人生を生きる人でありたいのです。

そしてここ聖ステパノ学園では、私がお手本にしたいような、真の意味での「ナマケモノ」にたくさん出会うことができました。それは個性豊かで日々を全力で生きているステパノっ子のみんなです。「ナマケモノ」のしたたかさが、外見だけでは分からないように、一見すると頼りなく見えたとしても、内面にはそれぞれが異なる強さを隠しているのですね。

「ナマケモノ」は、弱点を含め他の多くの動物とは異なる個性を持っています。それが自然界を彩り豊かなものにしつつ、他の生き物と共生することを可能にしています。多様な生態系が破壊されると環境が壊れてしまうように、人間社会からも多様性が奪われれば、それは健全な社会とは言えないでしょう。ステパノっ子もこの学園で鍛えた自分だけの強さを武器に、自分なりの生き方で社会に多様性を与える役割を与えられているのではないのでしょうか。

短い間ですが、この学園のメンバーの一員となり、みなさんと同じ時間を共有できた幸運に心から感謝しています。私も立派な「ナマケモノ」になれるように頑張ります。

「小学校」今年は、六名の可愛い一年生が入学しました。それぞれ、「自分が好きなもの」と、「一年生になって嬉しかったこと」を書いてもらいました。

③ なまえ S.P
すきなたべもの
りんご
すきなどうぶつ
きょうりゅう
すきないろ
あか



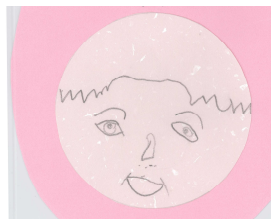
「たくさんあそべて
うれしいな」

なまえ S.S
すきなたべもの
めろん
すきなどうぶつ
うさぎ
すきないろ
みずいろ



「みんなとうさぎと
あえてうれしいな」

① なまえ I.N
すきなたべもの
ごはん
すきなどうぶつ
ねこ
すきないろ
きいろ



「お兄ちゃんとあそべて
たのしい。あえてよかった」

なまえ M.M
すきなたべもの
ごはん
すきなどうぶつ
うさぎ
すきないろ
あお



「つみきができて
うれしいな」

⑤ なまえ H.R
すきなたべもの
もも
すきなどうぶつ
ぞう
すきないろ
ぴんく



「きんぎょさんに
あえてうれしいな」

④ なまえ S.A
すきなたべもの
おだんご
すきなどうぶつ
ぞうさん
すきないろ
あか



「おねえちゃんと
あえてうれしいな」

*4月24日に新入生歓迎会を高田保公園で行いました。6年生が行き帰りに1年生の手をつないでくれて、ゲームも考えてくれました。上級生らしく1年生のお世話をしてくれました。メダルやお手紙などプレゼントも用意してくれて、小学生全員で交流して楽しい一日になりました。

小6 S・R

今日の1〜4時間目に1年生を迎える会を行いました。私とすみれちゃんは、プログラムを持って並びました。高田公園まで歩いて行ったので、ちよつとつかれたけど、がんばりました。公園に着いてからまず、1年生が自己紹介をしました。次に、ゲームでしつぽとりと宝さがしをしました。宝さがしは、12個見つかってほつとしました。しつぽとりでは、しつぽをとられませんでした。今日は、とても楽しかったです。

小6 I・K

今日は、新入生歓迎会を行いました。私は、進行係をやりました。1年生は、すごくかわいかったです。みんながゲームができて楽しかったです。学校にもどってから体育館でお弁当を食べました。小学生みんなで歓迎会ができて楽しかったです。1年生とこれから仲良くしていきたいと思います。よろしくお願いします。

「中学校」入学して約一か月。ようやく新しい生活にも慣れ始めた、一年生の感想です。

K・J

A・S
入学式の際は、小学生の時楽し過ぎたのに、大切な友達や、大好きだった先生が居なくなつてしまつて、「どうせ中学なんて楽しくないだろうな。」と思つていたけど、思つたより楽しい。

入学して一ヶ月。中学校生活は楽しいです。がんばっていることは、数学です。これからは中学生らしく、また、正アコライト、代表委員として、がんばっていききたいです。

N・S

中学は大変だと思つていたけど、慣れたらそんなに大変ではありませんでした。部活や勉強をがんばりたいです。

N・Y

これからがんばりたい事は、英語・数学・部活・習い事です。目標は、早寝早起きです！

A・S
毎日がつかれます。だけど、先生もやさしいし、すごくサポートしてくれます。目標は、早起きをすることです。

A・S

S・A
入学して、ステパノにやつとなれてきて、でも少し大変な事もあるけれど、いろんな事をしていきたいです。

F・J

I・N
授業が分かりやすいです。勉強をがんばっています。聖書の時間に、神さまのことをもっと知りたいです。

I・N

S・N
みんなの考え方がちがつて、大変な時もあるけど、少しでも理解できるようにがんばります。

M・S

I・M
いい先生がたくさんいて、幸せです。がんばりたいことは、部活です。これからやりたい事は、クラスでのお茶会です。

I・M

N・Y
お友だちとけんかしたけど、仲直りしました。お友だちをいっばいつくりたい。勉強とかをがんばりたい。

N・Y

S・A
がんばりたいことは、数学です。

I・Y

N・G
入学して約一か月たちました。担任の先生がやさしくてよいです。荷物が重くて大変ですが、がんばって、七曲りを上ろうと思います。

N・G

M・T
中学への山をのぼるのが、つらいです。この前みたいに、ラーメンを給食に出してほしいです。

M・A

私は、聖ステパノ学園中学校に内部進学をしました。そのわけは、小学校時代に授業がゆっくりで、勉強に困ったことが少しだけしかなかったからです。中学校に入った今でも授業はゆっくりで、私はとても安心していきます。



「互いに愛し合いなさい」

二〇一六年度 小学校SA代表

昨年度一年間、SAの小学校代表をつとめさせていただきました。運営・活動の中では、いきあたりばったりなところもありましたが、とにかく一年間終了して胸をなでおろしています。

SAの集いの冒頭では「私たちSAはどんなふうに聖書を読めるか」について毎回メッセージをお伝えしました。これは私の個人的なチャレンジであり、聞いてくださった皆様には申し訳なく思いつつ、深く感謝をしております。

三月の集いではこんなお話をしました。

ヨハネの福音書13章34節から

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

皆さん誰しも、子供たちのクラスが穏やかであるように、お互いを助け合う良いクラス・良い学校であるようにと願っていると思います。

イエス様はこの言葉の前に、自らすすんで、弟子たちの足を洗います。足を洗う、というのは召使の仕事なので、弟子たちは恐縮します。

この時にイエス様がこうおっしゃいました。「先生である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗いあうのですよ。私は模範を示したのです。」

子供たちがよいクラスでいてほしいなら、私たち親も、つまりこのSAもお互い助け合うよい集まりでなくてはならないと考えます。子は親の鏡と申します。子供の集団は親の集団の鏡とも言えるのではないのでしょうか。

「子供のクラスは良いクラスであってほしい、でも保護者はそれとは関係ない」ではなく、私たちもお互いを支えあう、子供たちの模範となるSAでいられたら、と思います。

私たちが助け合うことのできる場面は、物理的な仕事ばかりとは限りません。子育ての悩みを共有できる、と言った精神的な側面があることもSAの特長といえるでしょう。

同じ悩みを持つ方がたくさんおられます。「ウチはこうした」という解決策があるかもしれない。ただ「ウチも同じよ」「ウチもそうだった」と言われるだけでも救われたりします。特に上級生の保護者の方からのお話は参考になるでしょう。是非SA活動に参加して、様々な方との交流を深めることをお勧めします。

聖ステパノ学園は子供の学び場というだけでなく、私たち保護者の学び場、癒しの場である、そこまでひっくるめて全部が聖ステパノ学園なのだと思います。

STEPHEN'S NEWS

《表彰》

実用数学技能検定合格者

9級 小5 Y・M

《学校展関係のお知らせ》

皆様お誘い合わせの上ご来場下さい。

神奈川南部私立中学校フェスタ 2017

日時・5月19日(金)

9時30分～14時30分

会場・はまぎんホール ヴィアマーレ

私立小学校情報フェア

日時・6月4日(日)

12時～16時

会場・横浜そごう 新都市ホール

編集後記

入学礼拝式から一ヶ月が過ぎ、新しい学年にも慣れ、児童・生徒・教職員も明るく楽しい学校生活を送ることができております。

(け)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一七年五月十一日(木)発行 第210号